

道塚だより

令和3年9月27日
大田区立道塚小学校

校長 大場 寿子
第6号

「未来ものづくり科」の新設に向けて

副校長 藤田 昌弘

本校では、昨年度・今年度の2年間、大田区教育委員会より教育研究推進校の指定を受け、「未来ものづくり科」のカリキュラム開発に取り組んでいます。1学期より授業実践が始まり、全学年で研究授業を実施してきました。

大田区はものづくりの町です。区内には約3500の工場があり、その一つ一つの工場には、卓越した技術をもった人がいます。金属を素材とした工場では、「削る」「磨く」「形成する」「メッキする」といった、様々な加工を請け負っています。ほとんどの工場は、従業員が10人以内の小さな工場です。しかし、その技術力の高さは他に類を見ない精密さを誇ります。さらには、小さな工場を逆手にとり、工場同士がお互いに連携する「仲間まわし」によって、特化された高度な技術の集積が「多品種」「小ロット生産」「短納期対応」といったニーズに対応した製品作りに繋がっています。そうした町工場の工夫や努力を学ぶことも、大田区の未来を担う子供たちにとっては、働くことを感じる大切な時間になります。そうした学習を積み重ねていく中で、身近な地域社会にも目を向け、そこにある課題に気付いていきます。「イノベーション（新たな人・組織・社会の幅広い変革）」は、遠い未来の出来事ではありません。

電車に乗ると、多くの人がスマートフォンを操作する姿に遭遇します。少し前までは、新聞を読む人や文庫本を開く人の姿がありましたが、そうした人たちはもはや少数派になっています。今はリアルタイムで新しい情報が飛び込んでくる時代です。情報はスマートフォン一つで得られるものもありますが、自分の目で見て、耳で聞いて、実際に触れてみて得られるものには代え難いものがあることも事実です。未来ものづくり科の新設に向けて、物事の本質に近付くことも大きな課題の一つと言えます。社会の仕組みを知り、それを支える「もの」づくりの技術を学ぶことは、自身が生きる「未来」も見据えることに繋がります。コロナ禍の時代が終わり、その先の未来には何が待っているのか。そうした次の時代に生きる子供たちにとって礎となる学習になるよう、一層力を入れていきます。（授業内容等につきましては、学校のホームページにて発信する予定です。お待ちください。）

※PTAボランティアの方々の校舎内消毒清掃に心より感謝申し上げます。

- ◆研究発表会は、大田区の学校から各校1名の参加者と研究に関わった方のみでの参観となります。
- ◆学習発表会は、11月18・19日児童鑑賞日、20日（土）学年ごとの入れ替えによる保護者鑑賞日の予定です。従来の学芸会のような大掛かりな舞台装飾に準備をかけず、児童の言語による表現活動の一貫として、創造的に身体・言語で表現する力・鑑賞する力・協働的に参加する力を目指して実施します。コロナ感染状況に気を付けての学習活動となるため、全体として、学年合同の練習時間も大幅に減らしての実施となります。それでも児童一人一人が舞台に立つこと、学年が協力して達成感がもてる「学習発表会」は貴重な機会と考え実施することとしました。詳しくは後日連絡します。
- ◆「移動教室」6年生は10月25・26日に伊豆高原にて実施予定です。

